

平成29年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立鶴来高等学校

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	アンケート等からの分析と課題
1 生徒指導の方針・基準に一貫性のある協力体制のもと、基本的な生活習慣を定着させるとともに、規範意識の高揚を図る。	① 挨拶を含めた所作の指導を、学校生活の中で行う。	学校に関係する方々にはもちろん、生徒間の挨拶も積極的にできる生徒の割合が、 A 85%以上 B 80%以上85%未満 C 75%以上80%未満 D 75%未満	82.2% B判定	自らすすんで挨拶している生徒は全体で82.2%となっており、中間時より全学年で増加した。(7月:79.7%→12月:82.2%) 今後も、職員の率先垂範はもとより、生徒会や運動部の生徒が中心となって積極的な挨拶を心掛け、学校全体へ浸透させていく。
	② 望ましい服装容儀や規範意識の向上に対して全職員が積極的に指導にあたる。	服装容儀等について積極的に声かけをしている教職員が、 A 95%以上 B 85%以上95%未満 C 75%以上85%未満 D 75%未満	90.6% B判定	9割程度の教職員が声かけを行っている。今後もこれを積極的に行っていき、声かけが更に実効に繋がることを目指す。
	③ 規則正しい生活習慣と機敏な行動を確立するよう指導することで、遅刻の減少に努める。	1年あたりの遅刻人数が、 A 20%以上減少した。 B 15%以上減少した。 C 15%未満の減少であった。 D 減少しなかった。	53%増加 D判定	前年度の同時期と比較して学校・授業間遅刻ともに増加(学校:H28:465→H29:710、授業間:H28:302→H29:373)している。常習者の指導を行い、一部の常習者の遅刻が改善される一方で、冬季に入り遅刻者が増加している。(1年:133→104、2年141→119、3年85→128)今後も学年・生徒指導・家庭が連携を図り、粘り強く指導していく。
	④ 全職員が連携して「いじめ」が根絶されるよう努力する。	「いじめがなく安心できる学校である」と感じている生徒の割合が A 90%以上 B 85%以上90%未満 C 80%以上85%未満 D 80%未満	95% A判定	定期的に行うアンケートや、クラス担任や生徒指導が生徒を注意深く観察することで、目標を達成することができた。今後も、いじめ対策委員会やアンケート結果等の情報を職員間で共有し、速やかに対応する。
	⑤ ゴミの分別を通して、環境美化の意識が向上するよう指導する。	ゴミを正しく分別できていると考える生徒の割合が A 90%以上 B 85%以上90%未満 C 80%以上85%未満 D 80%未満	95% A判定	A判定ではあるが、設置場所によっては十分とはいえない状況である。生徒の意識と実際の状況との多少の食い違いがあるように思われる。その食い違いを埋めるために教職員、生徒それぞれにアンケートをとりゴミの分別・環境美化意識を一致させ、実際の指導につなげる。
学校関係者評価委員会の評価	概ね、良い評価が得られているので適切な指導がなされているものと感じている。ただし遅刻者数に関しては改善が見られない。時間を守るというのは社会人としての基本なので、回数の多い生徒と面談する等の指導を希望する。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	遅刻者数が減らないことについては、学校としても責任を痛感している。今後は朝学習の在り方の改善も含めて、生徒指導課、教務課、学年が連携しつつ、基本的生活習慣の確実な定着へ向けて効果的な対策を行っていく。			

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	アンケート等からの分析と課題
2 教育活動全般をとおして、生徒に自信と一体感を持たせる。	① 個に応じた進学指導、就職指導を充実させることにより、自分に自信を持たせ、希望する進路を実現するよう努力させる。	年度末の進学状況において、国公立大学合格者が、 A 5名以上 B 3～4名 C 2名 D 1名以下	2名 C判定	補習、小論文や面接等個別指導の取り組みにより、2名の生徒が合格した。低学年時からの小論文対策を行い合格者をさらに増やす。
		11月末の就職状況において、就職希望者の内定率が、 A 100% B 95%以上100%未満 C 90%以上95%未満 D 90%未満	100% A判定	今年度は求人も多く大多数の生徒が1度目の採用試験で合格をした。今後も個に応じた指導を継続する。
	② 遠足・球技大会・鶴翔祭・手取川歩行・式典等の学校行事を通して、自信・一体感を育成する。	学校行事を通して自信・一体感を持つことができたと感じている生徒の割合が、 A 80%以上 B 75%以上80%未満 C 70%以上75%未満 D 70%未満	70.5% C判定	1・3年生の評価が高く、2年生が低い。3年生は1・2年生を引っ張る立場で、1年生は高校生という新たな立場でそれぞれ活躍できていると思われる。2年生にも活躍の場を与えられるように計画する。
	③ 地域とともに歩む学校として、生徒・教職員・保護者が一体となり地域の清掃や行事などのボランティア活動に進んで取り組む。	学校全体を通して、部・委員会・各課でボランティア活動に参加した合計回数が、 A 55回以上 B 40回以上55回未満 C 30回以上40回未満 D 30回未満	43回 B判定	部活動を中心にボランティア活動への意識が高まりが見られるので、今後は取組を学校全体に広げ、全校生徒で取り組めるようにする。各行事の中で、人間としての思いやりの大切さを示すことによって、ボランティア活動の大切さを伝えていく。
④ 生徒の部活動に対する充実感、達成感を高めるとともに活性化を図る。	部活動に対して意欲を持って取り組んでいる生徒の割合が、 A 85%以上 B 80%以上85%未満 C 75%以上80%未満 D 75%未満	80% B判定	アンケート結果から見ると、全体的に意欲を持って部活動に取り組んでいると評価できる。部活動は本校の教育活動の大きな柱であり、今後も充実感や達成感を持って取り組めるよう効果的な指導を行っていく。	
学校関係者評価委員会の評価		進路状況は、就職・進学とも学校の努力が実際の数字となって現れていると感じられ、今後も生徒の希望実現のため効果的な指導を心がけていただきたい。また生徒の自己肯定感を高めるための行事の積極的導入を心がけるべきである。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		進路意識の向上のために、1年生全員を対象とした就業体験などを実施してきた。今後は具体的実施方法の見直しも含めて考慮したい。部活動や学校行事に関しても、よりよい形を模索していきたい。特に手取川歩行は本校の伝統的行事として既に定着しており、PTAとの連携を強化するなど更なる充実を図っていく。		

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	アンケート等からの分析と課題
3 授業のユニバーサルデザイン化を推進し、生徒がわかる喜びや学ぶ意義を実感できるように努める。	① 様々な背景や問題を抱えた生徒を理解するために教員が連携できる体制を整え、適切に支援できる能力の向上を目指す。	個々の生徒に応じた指導内容や分かりやすい授業づくりに取り組んでいるという教職員の割合が、 A 95%以上 B 90%以上95%未満 C 85%以上90%未満 D 85%未満	80.6% D判定	研究授業や小中学校の授業参観を通して「主体的、対話的で深い学び」の具現化を目指したものの、目標には届かなかった。校内研修サポートの活用、先進校視察の成果還元等をさらに推進していく必要がある。
	② 教科指導研究、公開授業を充実し、授業力の向上を図る。少人数であることを活かした効果的な授業を行う。	自分の理解度に応じた充実した授業が行われていると感じる生徒が、 A 95%以上 B 90%以上95%未満 C 85%以上90%未満 D 85%未満	83.1% D判定	ユニバーサルデザインデザインの導入を目指し、外部講師による研修を行い授業改善へ向けて実践を行う。授業互見の機会を設定することにより、指導方法についての知見を深めつつ、本校の特色である少人数指導の実効性を高める。
学校関係者評価委員会の評価		残念ながら、教員の自己評価・生徒の理解度ともに低迷気味である。学校は分かりやすい授業を行うことが第一の責務であり、改善のためには教職員全体で努力する必要があるだろう。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		今年度の反省を踏まえ、「主体的、対話的で深い学び」の具現化へ向けて、校内での研修のみならず、外部からも必要に応じ協力を得つつ（例えば先進校視察の実施）改善へ向けて努力していく。		
4 家庭学習時間や読書時間の増加を図り、授業内容の定着と国語力の向上を目指す。	① きめ細かく面談を重ねることで、学習意欲を向上させ確かな学力の育成を図り、将来の目標設定にもつなげていく。	生徒一人ひとりとの個人面談回数が、 A 7回以上 B 6回 C 5回 D 4回以下	6回(平均) 7回(3年) 6回(2年) 5回(1年) B判定	学年・生徒により差があるが平均して6回実施し進路意識・学習意欲の向上に一定の成果があった。この後は回数のみならず内容も充実させて生徒の希望にきめ細かく対応できるようにする。
	② 家庭学習調査を行い、その状況を分析することで家庭学習の習慣を身につけさせることにつなげる。	家庭学習の時間を確保している生徒の割合が、 A 70%以上 B 60%以上70%未満 C 50%以上60%未満 D 50%未満	45.0% D判定	学習習慣の定着は残念ながら不十分である。個々の面談や、全体での集会などでの学習をして自分の進路の可能性の広がりなど家庭学習の必要性を根気強く説いていく必要がある。また、生徒が「学ぶ喜び」を感じられるよう授業についてもさらに改善が必要である。
	③ 学校図書室の取り組みを活性化し、積極的に読書に取り組ませる。	年間の図書室入館者数が延べ A 4,100名以上 B 4,000名以上4,100名未満 C 3,900名以上4,000名未満 D 3,900名未満	4903名 A判定	授業での入館者数は951人で、教員の積極的な活用により、授業で図書室にきたことがきっかけとなって生徒利用者が増えたと考えられる。生徒の興味関心をふまえつつ、各教科の授業で活用できるような書籍も購入していく。
学校関係者評価委員会の評価		学校図書館の活動について、鶴来高校が読書活動の充実に取り組んでいるのは大変結構なことである。しかし未だ緒に就いたばかりという感も否定できない。図書館利用や読書量の増加には、今まで多くの実践報告があり、それを活用していただきたい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		授業や部活動単位での読書活動が、実を結び入館者数、貸し出し冊数とも増加させることができた。ただ、まだまだ十分とはいえず、今後の活動の充実が必要である。司書教諭、司書が中心となって今まで以上に工夫することはもちろん、学校全体としての取組を行っていく。		

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	アンケート等からの分析と課題
5 地域全体への広報活動に加え、中学校とのつながりを強めるための活動を教員個々が実践する。	① メール配信サービスの保護者登録数を増やし、学校行事や教育活動等をきめ細かく情報提供していく。	年度末の保護者のメール登録数が、 A 90%以上 B 80%以上90%未満 C 70%以上80%未満 D 70%未満	88.4% 1年93.3% 2年88.4% 3年83.2% B判定	昨年と比較して増加した。特に2年生の登録率が上昇した。年度始めの登録の徹底を継続する。
	② 中学生やその保護者に本校の教育活動をより理解してもらえるよう、ホームページの内容を充実させる。	ホームページの年間更新回数が A 360回以上 B 300回以上360回未満 C 240回以上300回未満 D 240回未満	303回 B判定	昨年と比較して大幅に増加した。動画など魅力のあるHPになるよう工夫を継続する。
	③ 教職員一人ひとりが中学校・地域とのつながりを強めるために積極的に活動する。	中学校・地域とのつながりができたと思う教職員の割合が、 A 80%以上 B 70%以上80%未満 C 60%以上70%未満 D 60%未満	65.7% C判定	職員全員が部活動等様々な形で地域貢献を推進めることにより、地域の方々に一層本校への理解を深めていただく。
学校関係者評価委員会の評価		ホームページの更新やメール配信登録数は、ほぼ満足できる水準に到達しているが、更なる改善を希望する。例えば行事のあった後のホームページでの報告も結構だが、事前の案内があるとより保護者や地域の方々に対して親切なのではないか。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		ホームページ等を利用しての情報発信については、学校関係者評価委員会のご指摘に従ってより積極的に取り組んでいく。また教職員の中学校へに働きかけに関しては、教職員全員が積極的に関わっていくように取り組んでいく。		